

平成 26 年度 第 1 回 CCC 教育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成 26 年 4 月 12 日(土) 13:00～15:00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：三尾委員、舟生委員、竹熊委員

(事務局) 井端事務局長 森下

IV. 検討事項

1. 26 年度委員会活動の進め方

(1) 能動的学習実現に向けた効果的な取り組み方策の研究

資料

資料① 平成 26 年度 委員会の活動計画

資料② 対話集会に関する検討事項 (メモ)

資料③ 対話集会に向けた検討事項について

資料④ 現在の授業で顕著な効果を上げている事例

参考 1 用語集

参考 2 長崎大学 アクティブラーニング事例「経営と経済」((長崎大学 HP)

資料 3 国内大学におけるアクティブラーニングの組織的実践事例 (1)

(長崎大学 大学教育開発センター紀要第 3 号付表 1)

参考 4 100 人一斉リモコンで解答 (新聞情報)

資料 5 学び改革 急ピッチ 学長アンケート (新聞情報)

資料 6 大学 1 年生 難題で覚醒 (新聞情報)

V 議事

1. 平成 26 年度委員会活動の進め方について

- ・能動的学修実現に向けた効果的な取り組み方策の研究について
- ・多様な能動的学修が行われているが学修成果の確認が必要である。授業の目標に対して成果が出ないことで苦勞している先生が多い。
- ・対話集会にて、目標に対する学修成果を出せる授業のヒントが得られる可能性がある。私情協からはきっかけとしての話題提供を行い、対話集会参加者からアイデアを出していただく。
- ・今後 3 年間で次のように進める。

平成 26 年度：各分野の対話集会等

平成 27 年度：各分野間の連携

平成 28 年度：大学間の連携 (個々の教員レベルの交流)、公開授業、授業見学等

- (2) 能動的学修の事例について、事務局長から参考資料 2, 4, A-5 にもとづきアクティブラーニングの状況について、長崎大学・大学教育イノベーションセンターの事例を中心に各事例の成果と課題の説明があり引き続き各委員から能動的学修の事例を

研究した。

2. 平成 26 年度委員会活動の進め方について

アクティブラーニングについて、いかに導入を進めるのか、従来の講義型授業とのバランスをどう考えるのかなど、意見交換がなされ、他の分野の委員会の状況についても確認し実施の取り組みを進めることにした。

3. 対話集会の開催内容について

以下の通り、決定した。

1. 開催時期（日程）について

平成 26 年 11 月 22 日（土）13：00～15：00

9 月初旬 開催案内発送

2. 開催場所について

早稲田大学（三尾先生お願い）

3. 事例紹介の内容について

次回委員会までに詳細を詰めて次回委員会で決定する。

- ・早稲田大学 一年生必須のアクティブラーニング事例（三尾先生担当）
- ・CSCL 活用事例（舟生担当）
- ・竹熊先生の事例
- ・難波先生の事例 等

＊集中的に学ぶこと、多少の消化不良はあっても、導入の契機としてもらうこと、を目的とし、2 時間（厳守）で実施。

4. 次回の委員会

平成 26 年 8 月 2 日（土）13：30～15：30

＊事例紹介の内容について事前に検討いただき開催内容を確定させる。